

産業サイバーセキュリティ研究会 WG1 ビル SWG（第 16 回）

議事要旨

会議： 産業サイバーセキュリティ研究会 WG1 ビル SWG（第 16 回）

日時： 2023 年 11 月 30 日 10:00-11:50

場所： オンライン開催（Teams 会議）

構成員（敬称略）：

（座長）江崎 浩 東京大学大学院 教授

松浦 知史 東京工業大学 教授

アズビル株式会社

イーヒルズ株式会社

NTT グループ（株式会社 NTT ファシリティーズ）

鹿島建設株式会社

株式会社九電工

株式会社きんでん（欠席）

技術研究組合制御システムセキュリティセンター

セコム株式会社（欠席）

ダイキン工業株式会社

株式会社竹中工務店

株式会社日建設計

日本生命保険相互会社

一般社団法人日本ビルヂング協会連合会（欠席）

一般社団法人ビルディング・オートメーション協会

株式会社日立製作所

一般社団法人不動産協会

三井不動産株式会社

三菱地所株式会社

三菱電機株式会社

横浜市

ICSCoE 2 期ビルチーム有志

（オブザーバー）

国土交通省

内閣サイバーセキュリティセンター

中部国際空港株式会社

中部国際空港施設サービス株式会社
(事務局)
経済産業省（商務情報政策局サイバーセキュリティ課）
株式会社三菱総合研究所

議題：

1. 開会
2. 各構成員より挨拶
3. CSSC ビル対策カタログ第 2 版について
4. IoT 製品に対するセキュリティ適合性評価制度構築に向けた検討状況
5. ウラノス・エコシステムについて
6. DADC スマートビルプロジェクトの活動とコンソーシアム組成について
7. ビル SWG 今後の方針について
8. 自由討議
9. 閉会

議事：

2. 各構成員より挨拶
 3. CSSC ビル対策カタログ第 2 版について
(CSSC ビル部会 澤部様より説明)
 4. IoT 製品に対するセキュリティ適合性評価制度構築に向けた検討状況
(サイバーセキュリティ課 木本補佐より説明)
 5. ウラノス・エコシステムについて
(情報経済課 鈴木係長より説明)
 6. DADC スマートビルプロジェクトの活動とコンソーシアム組成について
(DADC 粕谷様より説明)
 7. ビル SWG 今後の方針について
(事務局より説明)
 8. 自由討議
- (1) スマートビルコンソーシアムにビル SWG が合流することについて
- ビル SWG がスマートビルコンソーシアムに合流することは、賛成である。これまでのビル SWG は、ビル全体のセキュリティを議論してきた。スマートビルコンソーシアムはスマートビルに焦点を当てていると思うが、今後のセキュリティ WG ではスマートビルの観点からの議論になるのか？
→ これまではスマートビルについて議論してきたが、ビル SWG が合流した場合は、従来のビルセキュ

リティも含めるスコープに広げる必要があると認識している。設立準備会で議論したい。

- ビル SWG がスマートビルコンソーシアムに合流することは自然で賛成である。しかし、従来のビルのサイバーセキュリティの問題と、未来志向のスマートビルの論点とはギャップがあるのではないか。このギャップを踏まえてスコープを先に決めておく方が良いのではないか。
- ビル SWG は、解散ではなく合流という形で引き続きお願いしたい。合流した後も、既存のビルについて考えないといけない。ビル協とも連携して、既存のビルも連携しながら検討したい。
- 合流は賛成である。最近の新しいオフィスビルの建設にあたっては非常に多数の IT ベンダが関わっており、現状でも運用の検討は非常に大変である。スマートビルになるともっと複雑になるだろう。スマートビルの運用にあたっては、最初からセキュリティを考えて進めるところが重要である。運用は AsIs から引っ張られており、AsIs をしっかりと見ていくことが大切である。
 - 海外の事例を見ても、IT ベンダが非常に多い。チケットシステムを使ってベンダを制御すること等も考える必要があると思う。
 - AsIs から ToBe へどのようにして移行するかが大切である。
- AsIs としては、DADC のガイドラインに示しているようなビル OS に対応したスマートビルとなる前に、既に個別のクラウドで対応されている。スマートビルと AsIs の違いはビル OS を持つかどうか程度の違いではないか。従来のビルとスマートビルの切り分けは難しい。AsIs と ToBe がシームレスにつながっていくようなスコープを設定して欲しい。
 - さまざまな API が乱立することを許容するのか、統一的な API とするのか。スマートビルのマイグレーションシナリオに API の議論は含まれているのか。
 - IoT システムは、ほとんどがクラウド化されているのが現実である。統一的な API とするということは、ビルの機能を抽象的に扱うということである。デバイスをデカップリングするためのデータスペースを整備して、データドリブン社会に近づけるのではないか。

(2) スマートビルコンソーシアムについて

- セキュリティ WG に求める機能として、認証のセキュリティも大事である。認証基盤のセキュリティは他の WG にも関係するので、他 WG との連携機能がコンソーシアムの中に組み込まれると良い。セキュリティは最初にデザインしておく必要があるので、意思疎通の機能が大事である。
- スマートビルは、例えば都市 OS とも接続することが考えられる。都市 OS は、商業ビルだけでなく家庭や公共施設とも連携することが必要になる。したがって、市民目線、地域運営の自治体目線も加えて欲しい。エリアマネジメントの会社が参加できるようなスキームも設定して欲しい。また、都市 OS の議論が出ているが、補助金が無いと続けられないスキームになっていることを心配している。
 - ToBe 像を検討しているところである。防災の観点から国土交通省とも連携を図ろうとしており、そのほかの関係主体も巻き込みたい。
 - スマートビル側のインセンティブとして、容積率を緩和すること等の議論も出てきている。ビル

SWGの主幹はMETIだが、将来はデジタル庁や国土交通省との連携も重要である。

- 従来のビル（AsIs）とスマートビル（ToBe）では性質が異なるので、セキュリティ WG の中に分科会をつくることも考えられる。
- スマートビルは新しい概念であり、IT 基盤に加えて運用も検討すべきことが多い。最初からセキュリティ WG が運用面も含めて考える体制が良いのではないか。

(3) IoT 認証について

- IoT の機器認証の活用方法は、コンソーシアムのスコープに入るのか？
 - プラットフォーム認証を優先的にすすめており、プラットフォームと接続するデバイスの認証の検討をその後に実施するのが自然であると考えている。
 - デバイスの認証部分は制度側で進めていくが、全体の要件部分はプラットフォーム側とも連携して進めたい。制度も徐々に整備していく予定である。
 - デジタル臨時行政調査会のテクノロジーマップにおいて、デバイス認証との連携は既に描かれている。デジタル臨時行政調査会では、規制の見直しや新設も含めて議論することになっている。ビルセキュリティの分野は早い段階で議論が進むだろう。
 - IoT 認証は、認証の手間が大きくなりすぎないようにするべきである。国の関与が必ず必要となるとスケールしないので、そうならないような検討も行っている。

(4) ウラノス・エコシステムとの関係について

- ウラノス・エコシステムの説明で、競争領域と協調領域の説明があったが、セキュリティ WG では協調領域を扱うのか。
 - いくつかのレイヤーがあり、例えば個人情報やデータの扱いの部分は競争領域であるし、認証は協調領域になると思う。競争領域なのか、協調領域なのかも含めて議論して進めたい。
 - サイバーでベースとなる部分は協調領域になると思うが、アプリなどは国は関与すべきでないと考えている。
 - 『競争』を盾にしたロックオンは避けなければいけない。協調領域は、ガラパゴス化しないことが重要である。その観点からは、欧米やアジアとの連携も視野とすべきである。

(以上)